第２回　向陽学府小中一体校建設検討会　会議概要

１	開催日時　令和４年４月 11 日（月）	
２	開催場所　磐田市役所西庁舎　３階　301～303 会議室	
３	出席者（向陽学府小中一体校建設検討委員）	
	学識経験者	千葉大学大学院工学研究科教授
	地区代表	向笠地区長　向笠地区住民代表
		大藤地区長　大藤地区住民代表
		岩田地区長　岩田地区住民代表
	保護者代表	向陽中学校ＰＴＡ代表　向笠小学校ＰＴＡ代表
		大藤小学校ＰＴＡ代表
		向笠幼稚園ＰＴＡ代表
		大藤こども園ＰＴＡ代表　岩田こども園ＰＴＡ代表
	学校・園代表	向陽中学校長　向笠小学校長　大藤小学校長
		岩田小学校長　向笠幼稚園長　大藤こども園長
	県教委	義務教育課指導監
４	出席職員	教育長　教育部長
		教育総務課長　教育総務課　施設管理Ｇ長
		学校教育課長　学校教育課　課長補佐
		地域づくり応援課　課長補佐　福祉課　課長補佐
		高齢者支援課　地域包括ケア推進Ｇ長
５	事務局	学府一体校推進室
６	設計者	株式会社山下設計　３人

会議概要

１　教育長挨拶

先日、小学生から自治会の役員の方まで御参加いただき「みんなでつくる向陽学府未来会議」と題したワークショップを開催いたしました。グループワークでは、ファシリテーターに千葉大学の学生さんに御協力いただき、向陽中、大藤小、向笠小、岩田小の４校をベースに話合いを行いました。小学生や中学生が地域の方と話し合うことができて良かったと考えております。このように、いろいろな形で地域の雰囲気や地域の風ができていくのではないかと考えています。新しい学校を創りながら、新しい未来に磐田市の風ができていくのではないかと確信しております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

２　議事

今回は、配置計画についての議論と第１回ワークショップの報告を行った。

（１）向陽中学校北側道路の拡幅について

（設計者より）

安全な動線確保のための北側道路の拡幅について、拡幅を行う際は、古墳エリアがあるため、文化財保護の観点から注意が必要である。また、ロータリーから学校へのアクセス性についてや駐車場の台数をいかに確保できるかということが大切な視点になってくる。また、歩車分離の考えや既存校舎の利活用など総合的に捉えいかに安全な登下校ルートを確保できるかが重要であると考えている。

基本構想・基本計画案と基本設計案を提示し次の視点で比較した。

視点①：道路拡幅と文化財保護エリアの整合性について

北側の道路について、都市計画上、現状４ｍ弱の道路を７ｍに拡幅する必要がある。

基本構想・基本計画案の場合…文化財エリアに拡幅エリアが多く含まれてしまうため、文化財の試掘調査が必要となり、調査に時間がかかるという課題がある。

基本設計案の場合…バスロータリーの位置を普通教室の北側に配置した。また北東側の駐車場は北側道路から出入りせず、駐車場の東側のみから出入りする計画とすることで７ｍの拡幅範囲をバスロータリーまでとし、文化財エリアへの影響を最大限抑える計画とした。

視点②：駐車場の台数

基本構想・基本計画案の場合…道路拡幅により駐車スペースが小さくなり約 35 台となる。

基本設計案の場合…現状の広さで使用でき、約 70 台の駐車が可能。

視点③：バスロータリーから昇降口までのアクセス

基本構想・基本計画案よりも基本設計案の方がより近くなる。

以上の提案に対し、検討委員の皆様から様々な意見をいただいた。

（検討委員より）

・７ｍの拡幅は、北側に広げられないのか。
・駐車場は近くに整備しないと足りないのではないか。
・バスや送迎の自家用車、徒歩や自転車で通学する児童生徒の動線についてどう考えるのか。

（事務局より）

・道路を北側に広げようとすると土地の取得が関係してくる。現状の敷地の中での整備を検討している。
・駐車場については、まずは現状の敷地の中で最大限に確保できるように考えているのが今回の提案。現状の敷地以外に駐車場を整備するかどうかも並行して検討している。

・土地や予算など限られた条件の中で計画する必要がある。このような条件の中で、児童生徒の歩車分離を図ることや必要最小限の道路をセットバックするなど工夫をしながら、最善を尽くしていきたい。

道路拡幅については、出された意見をもう一度整理して再提案する。また、駐車場の課題についても検討し再提案していく。

（２）プールの配置計画について

（設計者より）

基本構想・基本計画時には、敷地南東の既存プールの位置に再整備する方針であった。今回の小中一体校となった場合の屋外活動スペースの考え方や埋蔵文化財エリアとの関係などを踏まえ、プールの配置の考え方について確認いただきたい。

Ａ案～Ｃ案を提示

Ａ案：現在の位置での再整備（基本構想・基本計画案）

Ｂ案：新校舎棟屋上に設置（プロポーザル案）

Ｃ案：大藤小のプール活用（既存施設の活用）※大藤小プールは平成 16 年竣工

以上の案について検討委員の皆様から様々な意見をいただいた。

（検討委員より）

・Ｃ案は、危機管理面で課題があり、水深も中学生に適しているか分からない。

・Ｃ案は、カリキュラムを変更する必要があるのではないか。

・Ｃ案は、移動があるため、プールに入る時間が短くなるのではないか。

・Ｂ案について、地震では想定外にならないように計画してほしい。

・Ｂ案は、コストが高くなるのではないか。

・Ａ案とＢ案はどれくらいの費用の違いがあるのか。

（設計者より）

・Ａ案とＢ案のコストを比べた場合、Ｂ案の方が高くなる。Ａ案の場合は、現状のプールが築 60 年を超えているので、躯体から作り直す必要がある。Ｂ案が高くなるのは、プールを屋上に乗せた場合、それを支える構造体を強く作る必要があり、概算ではあるが 6000 万～7000 万程度高くなる。

（教育長より）

・プールが必要かという議論では、理想では公共のプールを利用できるようになるとよいと考えている。利点としては、1 年中いつでもプールが利用できるため、教育カリキュラムが組みやすくなるという点がある。

（事務局より）

・Ｃ案の場合、運用面で課題があることは承知している。ながふじ学府は、小学生と中学

生で同じプールを使用している。小学校と中学校の授業時間の関係で小学校の休み時間も 15 分と長く取っており日課の工夫ができると考える。運用面は今後検討していく。
・大藤小へは、学府バスを使って児童生徒を輸送できる。

Ｂ案を推す委員が多数いたが、プールをつくらなくてもよいという意見もあったことから、それぞれの案のメリット、デメリットをもう一度整理して再提案していく。

（３）ワークショップの報告

３月 29 日に多世代の 27 人に参加いただき、大藤交流センターにて「みんなでつくる向陽学府未来会議」と題したワークショップを行った。冒頭に柳澤教授からレクチャーをいただき、その後山下設計からプロポーザル案の紹介を行った。４校のグループに分かれて、現状の課題、未来に残したいことについて議論いただいた。多くの意見をいただいたが４つのグループから出た意見の概要は以下のとおり。

〇Ａ班　向陽中

雨の日の校舎間の移動についての意見、屋外活動スペースを確保したい、茶摘み体験の実施、地域行事では民謡やダンスがあるとのことで、そういった活動を復活させたいという意見があった。

〇Ｂ班　大藤小

自由に使えるオープンなスペースが欲しい、ＧＩＧＡスクールや調べ学習で使いやすいよう、ＰＣ室と図書室を近くに配置したい、またソーラン節を通してこども園との交流を継続したい、歴史あるなわとび大会を継承したいといった意見があった。

〇Ｃ班　向笠小

自然の中で静かに学べる環境を残していきたい、広く明るいランチルームでの交流を残していきたい、ファミリー・縦割り活動を続けていきたいという声があった。

〇Ｄ班　岩田小

コロナ禍で実施した、外での授業が良かったという意見があった。また異学年交流の場所が欲しい、授業での文字を書く機会を残すという声があった。一人一台の一輪車活動を継承していきたいとのことであった。